

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	藪内 真帆	学校名	京都市立向島秀蓮小中学校
教科（科目）・領域	社会科	対象学年（人数）	3年2, 3, 4組（86名）
実践年月日（時数）	令和2年10月29日（木）（全11時間）		

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：わたしたちの暮らしとはたらく人々『農家で作られるもの』				
2. 実践する教科・領域：社会科	3. 学習領域			
		1	2	3
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生
	B グローバル社会	相互依存	情報化	
	C 地球的課題	人権	環境	平和
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：				
地域に見られる農家の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、農家の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。				
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	(1)生産の仕事に携わっている人々の仕事の様子や、生産の仕事が地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解している。 (2)国際協力の現場では、現地に応じた取組が工夫されていることを理解している。		
	②思考力, 判断力, 表現力等	(1)生産に携わっている人々の仕事の様子や、生産の仕事と地域の人々の生活との関連を考え、表現している。 (2)ルワンダで働く富田さんと、地域の農家の宮本さんのおもいを比べ、似ているところを考え表現している。		
	③学びに向かう力	(1)地域に見られる生産の仕事について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。		

6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童／生徒観，教材観，指導観)	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 自分たちの地域の農家と，国際協力の現場で働く人々のおもいに共通点を見つけることで，どの地域においても持続可能な農業の在り方や，その地に合った方法で工夫して取り組んでいることに気づかせたい。また，国際理解教育を社会科の学習の中に位置付けることで，自分たちの生活に関わる様々な「仕事」の一つとして国際協力について，理解を深めることができるのではないかと考えている。		
	【児童／生徒観】 本学年の児童は，３年生から始まった社会科の学習に意欲的に取り組んでおり，前単元『商店のはたらき』では，色々な品物の産地調べを通して，日本が外国と多くの繋がりをもっていることを学習した。また，その際提示した資料から，日本は約６割を外国からの輸入に頼っていることと，その中には国際協力によって日本に輸入されている品物があることを児童たちは知った。しかし，それ以外の場面での日本と世界の結びつきについてはまだまだ知らないことの方が多い。本単元では「はたらく人々」を通して，自分たちの地域と世界との共通点を探し，また新たな角度から世界を身近にとらえることができるきっかけを作りたいと考えている。		
	【教材観】 本単元では，前単元で知った国際協力についてさらに理解を深め，地域の農家で働く人々と国際協力の現場で働く人々が，それぞれその土地に合った持続可能な取組をしようとしていることに気づかせたい。自分たちの地域と遠く離れた国で働く人々が大切にしていることの共通点を見つけることで，自分たちにもできる地域や世界を大切にする行動について考えるきっかけになるのではないかと考える。国際協力については，６年生の社会科で詳しく学習する内容ではあるが，３年生の段階で少し触れておくことは，今後の国際理解教育やキャリア教育を実践していく中で，より深い学びにつながっていくのではないかと考えている。		
	【指導観】 本単元では，地域の農家の宮本さんにご協力いただきながら学習を進めていく。宮本さんは，「人も向島もずっと在る未来へ」というおもいで農家の仕事をなさっている。宮本さんは，どのようにして野菜作りをしておられるのか，収穫したらその先には何があるかなどの工程に加え，どのようなこだわりをもって作っておられるのか，見学や調査を通して調べさせたい。 そのうえで，これまでに学習した「日本には外国からもたくさんの食料が届けられていたこと」「国際協力という仕事があって，外国で農家の仕事を手伝っている人々もいたこと」を側面掲示や，授業の始まりの前時の振り返りで想起させ，外国で農家の仕事をしている人や，国際協力をしている人々はどのようなことを大切にしているのかという本時の問いにつなげていく。 本時では指導者が参加した教師海外研修2019「ルワンダ」で撮影した，ルワンダのコーヒー農園の写真を本時の導入として提示し，児童に外国でも自分たちの地域と同じように環境のことを考えて働いているのではないかと，という予想を引き出したい。指導者を通して，児童はルワンダを身近に感じとることができるのではないかと考える。そのうえで，JICA映像資料「国際協力」を知る映像から，ルワンダで活動する富田さんのおもいを調べる。その後，再び地域の宮本さんと国際協力の現場ではたらく富田さんのおもいとを比べることで，もう一度自分たちの身近な人や環境に置き換えて考えさせていきたい。		
	7. 単元計画（全１１時間）		

時	ねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース 活用はここに記載
1	京都市や，地域でつくられる農作物の種類や分布を調べ，関心をもつ。	・京都市で作られている農作物の種類や分布を調べる。 ・外国から輸入している野菜と京野菜の違いを考える。	・京都市の京野菜マップ ・輸入量の多い野菜

2	サニーレタスを観察して疑問を出し合い、学習問題を作る。	・サニーレタスとその種を観察する。 ・気づいたことや疑問に思ったことを出し合う。 ・疑問をもとに学習問題を作る。	・サニーレタスの種 ・収穫後のサニーレタス
3	学習問題について予想し、予想したことをカテゴリー別に整理することで学習の計画を立てる。	・「土」「種まき」「育て方」「収穫」「出荷」のカテゴリー別に予想を分類、整理する。	
4	映像と写真を中心にサニーレタスの生産工程について調べる。【土づくり】【種まき】	・宮本さんの畑の映像とあのみなす作りの写真を見る。 ・土づくりから種まきがどのように行われているのかを調べる。	・宮本さんの畑についての資料
5	写真と宮本さんの話を中心に、サニーレタスの生産工程について調べる。【育て方】【収穫】	・育て方や収穫の方法について調べる。	・宮本さんの畑の写真 ・宮本さんの話 ・育て方、収穫方法についての資料
6	出荷先について調べる。	・収穫後、どのようにしてどこへ出荷されるのか調べる。	・出荷についての資料
7	調べたことを整理して、主な生産工程についてカレンダーにまとめる。	・「サニーレタスカレンダー」にまとめる。 ・生産工程について整理する。	・生産工程についての資料
8	生産の工夫から、宮本さんの思いについて考える。	・資料を読み、宮本さんの工夫について考える。 ・私たちが安心して野菜を食べることと関連していることについて考える。	・農薬や化学肥料を抑え、自然本来の力を生かした宮本さんの野菜づくりについての資料 ・宮本さんからの手紙
9	宮本さんの野菜づくりにぴったりの名前をつけ、学習問題に対する答えを考える。	・宮本さんの野菜づくりに合うキャッチコピーを考える。 ・学習問題に対する答えを考え、まとめる。	・これまでに活用してきた資料
10 本時	ルワンダで働く富田さんはどのようなことを大切にしているのか考え、宮本さんのおもいと比べる。	・写真を見る。 ・映像資料を見る。 ・宮本さんのおもいと富田さんのおもいをくらべる。	・ルワンダのコーヒー畑の写真 ・JICA 映像資料 ・JICA 海外協力隊・富田さんの場合
11	農家の人々の働きと、自分たちの生活との関わりについて考え、ポスターにまとめる。	・第9時で考えたキャッチコピーを生かしてポスターを作る。	・ポスター見本(国語教科書)

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：ルワンダで働く富田さんと、地域の農家の宮本さんのおもいとを比べることで、どちらもその土地で生活する人のことを考えた取組を工夫していることに気づくことができる。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (7分)	1. 前時の学習を振り返る。 「宮本さんの野菜づくりについてどんなキャッチコピーをつけましたか。それはなぜですか。」 『野菜にも向島にもやさしい野菜づくり』です。農薬を使わず、野菜だけでなく向島の土もずっと自然本来の力で健康でいられるように考えて野菜を作っていたからです。 『みんなが安全においしく食べられる野菜』です。食べる人のことを考えて、土づくりから安全にこだわっていたからです。 2. バナナの木で包んだコーヒーの苗木の写真を見る。 「先生が去年の夏にルワンダで撮影した写真です。なぜ、ビニール袋ではなくバナナの葉で苗を包んでいるのでしょうか。」 - ルワンダはバナナがたくさんあるから。 - 環境のことを考えているのかもしれない。 「ルワンダでは、農家の仕事以外にも色々な場所で国際協力という仕事をしている人がいます。先生も実は、そんな仕事をしている人とルワンダで会ってきました。どんな仕事をしている人だと思いますか。」 - 木を植える仕事だと思います。 - ルワンダの人に日本語を教える仕事だと思います。 「実は、ルワンダでは水に関係するいくつかの問題があります。水の問題については、今回は詳しく学習しませんが、その問題を解決するための仕事をしてられます。」	- それぞれが考えたキャッチコピーを手元に用意し、前時の学習を想起できるようにする。 - 指導者が撮影した写真からルワンダの国際協力へと関心を向けることができるようにする。	- ルワンダのコーヒー畑の写真  - ルワンダのコーヒー - 協力隊の方と一緒に撮影した写真 
ルワンダではたらく富田さんは、どのようなことを大切にしているのだろう。			
予想 (3分)	3. 問いに対して予想する。 「これまでの学習をもとに予想してみましょう。」 ルワンダでも環境のことを考えているのかもしれない。	これまでの学習を根拠にして予想できるように、側面掲示なども見るように伝える。	

調べる (10分)	4. 映像資料から調べる。 「ルワンダで働いている富田さんは、どのようなことを大切にしているのか、映像から調べてみましょう。」 ・ルワンダの人と同じ目線に立つことを心がけていると言っていた。 ・ルワンダの人が大切にしていることを知ることと言っていた。	・「おもい」に注目して映像を視聴するように伝える。 ・映像に出てきた「価値」という言葉を「大切に思っていること」として補足する。	・ JICA 映像資料「国際協力」を知る JICA 海外協力隊・富田さんの場合 富田さんが、大切にしていること、国際協力で大切だと思うことについての話
話し合う (15分)	5. 宮本さんのおもいと似ているところを考える。 「これまで学習してきた宮本さんの思いと比べて気づいたことはありますか。」 ・宮本さんは向島に住む私たち、ルワンダではルワンダ人たちのことを考えていた。 ・どちらもその土地で生活する人のことを大切に思っている。	・宮本さんの思いと似ているという意見に印をつけ、視覚的に捉えることができるようにする。 ・映像の中で、特に注目して宮本さんのおもいと比べてほしい部分については、映像を静止画として板書に掲示する。	・ 富田さんの話の静止画  
まとめ (5分)	6. 本時の学習を振り返る。 「今日の学習で分かったことと、そこから考えたことを書きましょう。」		
9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） ルワンダで働く富田さんと、地域の農家の宮本さんのおもいとを比べ、どちらもその土地で生活する人のことを考えた取組を工夫していることに気づき、表現している。 【思考・判断・表現】（発言・ふりかえり）			
10. 学習方法および外部との連携 ・地域の農家の宮本さんにご協力いただき、資料作成を行った。 ・新型コロナウイルス感染防止の観点から、見学が行えなかったため、映像資料や写真などの資料からの調べ学習が中心となった。			
11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み ・校内の玄関口に SDGs のポスターを掲示している。今後、特別教室等にも関連する項目のカードを掲示したり、授業で関連する項目を板書したりして、生徒が関心を高めることができるようにしていく。 ・校内研修会と同じ単元で国際理解教育を実施することで、校内の教職員の関心を高める。			

【自己評価】

12. 苦労した点	教科の学習に組み込むにあたって、児童にとってどうすれば自然な流れになるのか悩んだ。社会科「農家でつくられるもの」の単元の中で、突然ルワンダが登場することは児童の自然な思考の流れではないので、いかに本時の学習をこれまでの学習と結びつけるかという点は課題であった。「本単元では国際理解教育についての視点もある」ということをあらかじめ児童と共有しておいてもよかったのではないかなと思う。
13. 改善点	SDGs のロゴだけでなく、社会科では「自分たちの地域」「京都市」「日本」「世界」のようなロゴを用意しておくことで、児童らが見通しをもって、この時間はどこまで広げた視点で考えればよいのかが分かるのではないかな。もちろん、そのロゴがなくても自分たちの身近な事象から世界に広げて考えていくことのできる児童を育てたいが、3 年生の段階では一つの視覚的な支援や思考のための視点になるのではと考える。 映像資料はどんどん流れていってしまうので、静止画をもう少し準備する必要があった。児童の手元に資料として残してもよかった。 本時の問いや、予想に対する根拠になる情報が少なかったために、単元の中に 1 時間組み込むだけでは、国際理解教育として深まり切らなかったように感じる。ルワンダという国や文化についても、本単元のみならずその他の教科、場面で触れ、親しんでおくことで、より自分に身近な存在として捉えたり、思考を深めたりできたはずである。教科に国際理解教育を組み込む場合、普段から多くの場面で取り扱う事象や国に触れられる仕掛けが必要だと考える。
14. 成果が出た点	校区の農家の宮本さんと、ルワンダで国際協力をしている富田さんを比べることで、国が違っても人やその土地のことを思いやる気持ちが同じことや、国によってそれぞれの方法があることを児童らは知った。そこから、必ずしも日本の方法が良いわけではないと気付く児童が多くいた。 ベン図を使って整理したことで、地域（現地）の人のために尽力していることの他にも、その土地の自然を活用して働くという仕事の工夫について気づくことができた。
15. 学びの軌跡	地域の農家 宮本さんの野菜づくりに児童がつけたキャッチコピー ・土から作る野菜の未来へ… ・自然で育てる野菜 ・微生物の力で作る ○本時の問い 「ルワンダで働く富田さんは、どのようなことを大切にしているのだろう」 に対してこれまでの学習をもとに予想する ③ 川の水をよごれたりしないように大切にしていると思う。そしてルワンダにいる人を大事にしている。 ・ 川の水をきれいにしてルワンダの人にのんでもらえるように。 ルワンダの人を生活しやすく水や動物を大切に食べ物が大切にルワンダの人を大切に水をきれいに川をきれいに ルワンダの人たちにきれいな水をのんでもらうために自せんをつかっていることが大切にしている。 水を大切にしている。ルワンダの食べ物や飲み物を大切にルワンダの人をよろこばせることが大切にしている。(自せんのみで水をきれいにしている。)しんがり関係を 地域（ルワンダ）の人に注目していた。

○映像資料視聴後のノート

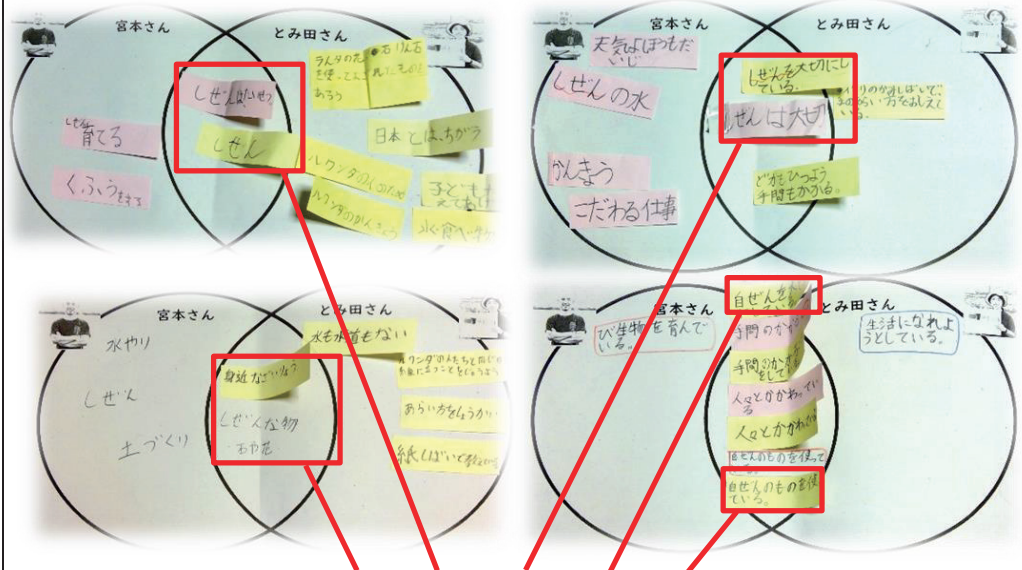
大切にしていること
 ・きょうカールワルダに住むみんな
 ・石、けん花（ランタナ）
 ・日本の方ほうでされいに
 ・ルワルダの人と同じ目線に立つ
 ・知らないことを教える。
 ・地いさの人を大切に。

<メモ> だんだんなれてくる。
 お花いっしょにいれてよごれたものをあらう。

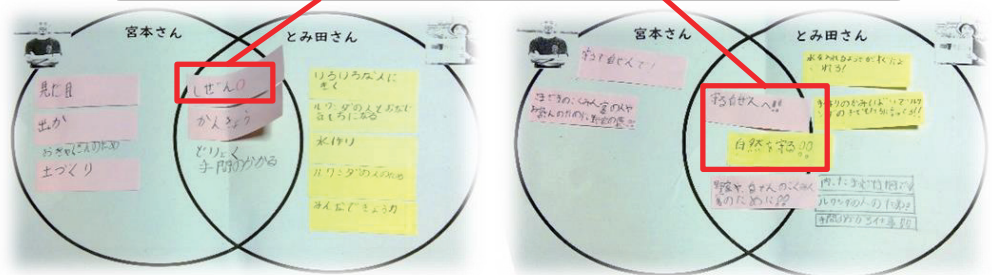
少しでもルワルダの子どもが水を
 入れるようぎをぎれりにしてくれ
 るように紙しばりで、あがり方を
 しょうがりにしている。

映像資料から「大切にしていること」や、富田さんの活動の様子を記録した。

○ベン図を用いて、農家の宮本さんと協力隊の富田さんの共通点を考える



ベン図に整理した後、グループでの話し合いを通して、富田さんが「石」や、ランタナという現地に咲く「花」を活用していることから、宮本さんとの新しい共通点「自然」という言葉を見つけた。



○授業後のまとめとふり振り返り

まとめ とみ田さんも宮本さんも
 ちらも、しぜんを大切にしている。
 ルワルダの人と、いっしょに水をく
 み、いっしょに、よごれたものを、い
 っしょに、手なでして、ルワルダの
 人のため、手間のかけ方、ほうで
 いっしょに、がんばって、やっている
 ことを、した。
 かんさようもよく、していること
 を、わかりました。

ふりかえり
 そこに、今、てい、る、ち、う、え、で、と、み、た
 テ、ハ、や、る、ん、だ、と、わ、か、り、ま、し、た、
 日本、の、よく、落、ち、ろ、う、洗、る、で、も、お、金、が
 な、い、か、ら、日、本、や、り、な、が、一、番、一、番、
 だ、も、な、い、事、を、知、り、ま、し、た、

とみ田さんも宮本さんも、しぜん
 を、た、い、せ、つ、に、し、て、い、る、こ、と、が、
 わ、か、り、ま、し、た、
 ま、た、と、み、田、さ、ん、の、こ、と、も、も、と、
 し、り、た、い、ひ、す、
 だ、切、い、思、い、ま、す、

	・ルワンダの人のため、手間のかかる方法で一緒に頑張ってやっていることを知った。 ・そこに合っている方法で富田さんはやるんだと分かりました。日本のやり方が一番いいわけでもないことを知りました。 ・富田さんは、ルワンダの水や環境をよくして自然をきれいに大切にしている。宮本さんは、地域の人のために野菜をたくさんつくっていて、野菜づくりの環境をよくしている。日本とルワンダは様子が全然違ったけど、はたらく人がいっしょうけんめいなところは似ているなと思いました。 ・富田さんは、ルワンダの環境や自然に合わせて、ルワンダの人に水を入れる容器をきれいにする方法を伝えていた。宮本さんと富田さんを比べてみて、二人とも環境のことや人々のことを考えていることがわかりました。 ・ルワンダで暮らす富田さんは宮本さんと同じように人のことを大切にしている。
16. 授業者による自由記述	前単元『商店のはたらき』では、色々な品物の産地調べを通して、世界中の国々と自分たちの食卓が大きく関わっていること、日本が食料の約6割を外国から輸入していることを知った。この学習で、世界とのつながりを初めて実感した児童も多くいた。 また、多くの課題と改善点はあったが、今回の授業を通して「はたらく人々」からも共通点が見えてくることを児童は知った。今後は、この共通点や世界とのつながりを実感し続けることが重要ではないかと考える。世界の諸問題をジブンゴトにするために、まずは日常生活の中で世界の人や文化、様々な事象に関心をもつことのできる児童を育てたい。発達段階によってどれだけジブンゴトにできるかは変わってくるだろうが、小学校の低学年から、世界とのつながりを実感できる機会が充実していることで、その後の段階において問題意識や、問題解決への意識が高まると考える。 教科として国際理解教育を取り扱う場合でも、単元や教科を横断して様々な場面で世界とのつながりを実感し続けられるような取り組みを仕掛けていきたい。そのために、指導者が絶えず世界とのつながりを探し、どこまでジブンゴトにできるかが大切であると改めて感じた。

参考資料：

- ・ JICA 映像資料「国際協力」を知る JICA 海外協力隊・富田さんの場合
- ・ JICA 地球ひろば (2019)『国際理解教育実践資料集』独立行政法人国際協力機構
- ・ JICA 広報室 (2019)『みんなでつくる、よりよい世界』独立行政法人国際協力機構
- ・『mundi』2018 年 8 月号 p.16～17「国際協力で日本の食卓を豊かにする」
独立行政法人国際協力機構
- ・ [ルワンダ産コーヒーを世界に \(2018 年夏号\) | 首相官邸ホームページ \(kantei.go.jp\)](https://www.kantei.go.jp/jp/headline/contributing_worldwide/kawashima.html)
https://www.kantei.go.jp/jp/headline/contributing_worldwide/kawashima.html
- ・ [プロジェクト概要 | コーヒーバリューチェーン強化プロジェクト | 技術協力プロジェクト | 事業・プロジェクト - JICA](https://www.jica.go.jp/project/rwanda/006/outline/index.html)
<https://www.jica.go.jp/project/rwanda/006/outline/index.html> 独立行政法人国際協力機構
- ・ JICA 地球ひろば 新聞記事版「地球ひろば ー 共につくるぼくらの未来ー」
SDGs ゴール 17×ルワンダ 2018 年 9 月 3 日, 9 月 24 日 毎日小学生新聞

土づくり



野菜づくりは、土を育てるところからはじまります。いい土でないと、いい野菜は作れません。いい土とは、土の中に微生物がたくさんいる土のことです。微生物がたくさんいると、野菜が病気になりにくくなって、おいしい野菜が作れます。なので、土づくりにはこだわっています。

※微生物…けんびきょうでなければ見えない小さな生物

たねまき

サニーレタスは、10月中旬くらいからが旬の野菜です。8月に入ると、たねまきを始めます。はしゅきというきかいを使って、セルトレイにたねをまきます。しぜんの雨がいいので、天気予ほうを見て、雨がふる前の日にたねまきをします。



播種機（はしゅき）



セルトレイ

ていしょく 定植

※セルトレイから畑にサニーレタスをうつすこと

8 / 9 たねまき

9 / 10 ていしょく
定植



サニーレタスはだいたい20日～30日で芽^めが出ます。

小さいうちは虫に食べられやすいのでセルトレイで育て、

あるていど大きくなってから定植^{ていしょく}すると、大きい野菜^{やさい}がしやすいのです。



水やり

たねまきをしたあと、一度水やりをします。このときの水は、できるだけ自然^{しぜん}の雨がいいです。次の日からは、あまり水やりはしません。水をやりすぎると土がかたくなるからです。

定植^{ていしょく}したあとも、できるだけ自然^{しぜん}の雨にまかせています。でも、夏の暑いときには水をやることもあります。畑は広いので、ホースやかん水チューブも使いますが、手でやることが多いです。たいへんですが、手の方が一つ一つのサニーレタスにしっかりと水をかけられるからです。





9 / 18



10 / 2



9 / 18



10 / 2



のうやく 農薬

虫に食べられると、野菜^{やさい}にも苦み^{にが}が出ます。また、見た目も悪くなり、お客さんに買いたいと思ってもらえません。

けんこうな土をつくり、微生物^{びせいぶつ}の力を使いながら野菜^{やさい}を育てているので、あまり農薬^{のうやく}を使わなくてもいい野菜^{やさい}が作れます。しかし、天候^{てんこう}のえいきょうなどで、野菜^{やさい}が病気^{びょうき}になりそうなときや、虫^がの害^{がい}をうけそうになることもあります。そんなときは、病気^{びょうき}や虫^がの害^{がい}が出る前に野菜^{やさい}をよくかんさつして、農薬^{のうやく}をまきます。ここでも、ドクダミ^{すみ}や炭^やを焼くときに出たけむりなどを使って、できるだけ自然^{しぜん}の薬^{くすり}にしています。

しゅうかく・出荷^{しゅっか}

午前5時30分 野菜のしゅうかく、荷づくり

正午 はいたつ → レストランなどの飲食店や、じねんと市場

すずしいうちに切らないと野菜^{やさい}がいたみます。

しゅうかくするときには、虫がついていないか、色はおかしくな
いか、病気^{びょうき}になっていないかなどに気をつけて、野菜^{やさい}をよく見た
り、味見をしたりしています。



宮本ファームのホームページより（抜粋）



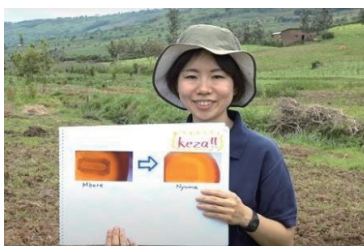
おいしい米と野菜をつくるため、さまざまな農法を取り入れてきました。

自然のめぐみを受けて成り立つ農業。時には災害で米や野菜がいたんでしまうこともあります。そんな時、もし日ごろからお客さまと信頼関係が築けていたら、売れないものとして、すてる以外の道をつくれるかもしれません。

わたしたちは一人一人のお客さまとの関わりを大切に、環境に気をつけた持続可能な農業を行っていきけるよう、これからも大地と向き合っていきます。

※持続可能…いつまでも続けることができること

とみ田さんの話



水を入れるようきが、すぐによごれてしまうので、^{てづく}手作りの紙しばいで^{かみ}あらい方を^{かた}しょうかいしています。

に^{ほん}日本で^{おこな}行われているような方法^{ほうほう}は^{ぜんぶ}全部ためしましたが、なかなかよごれが^お落ちませんでした。

そこで、^{じゅうみん}住民に石・石けん・ランタナという花を入れてあらっていると聞いて、^{みちか}身近なざいりょうでできる、^{ほうほう}こんない方法があるならと思い、それを^{つか}使って子どもたちに^{かた}あらい方をしょうかいすることにしました。



ジェリカン（水を入れるようき）に水をくみます。



ランタナの花



ルワンダの人たちと同じ^{めせん}目線に立てるようにどりよくすることが一番じゅうようだと思います。かれらの生活の中にも、どうやったら^く組みこみやすいかが^{だいじ}大事です。

名前 ()



宮本さん



とみ田さん